

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2016年3月17日

[テーマ] 巨人・ヤクルト優勝の年—景気を左右？先行きは—

民間金融機関の方が「今年の景気も期待できませんね」とため息をつくので、てっきり「マイナス金利」の話だろうと思った。1月に日本銀行が導入した「マイナス金利付き量的・質的緩和政策」により、「量」「質」「金利」の三つの次元での金融緩和が可能になったが、運用利回りの大幅低下を余儀なくされる金融機関の株価は大きく下落、大手金融機関は今春のベアを見送る、とのニュースも報じられている。

全く別の話だった。野球賭博問題の影響で今年も巨人の優勝は難しいというのである。

「巨人が優勝する年は景気が良い」という話がある。勝てば、ファンの企業経営者の投資意欲が高まったり、ファンの消費者の財布のヒモが緩んだりするかも知れない、というのが理由だ。

群馬県は、かつて「群馬ジャイアンツ構想」もあったとうわさされるほど、巨人ファンが多い県とされている。勝つことと経済の活力との間に関係があるということは、実感とともに受け入れる方も多いただろう。

実はこの話、景気に一喜一憂するエコノミストの間でも支持する人間が少なくない。

データを確認すると、1965年から昨年までの51年間、巨人のリーグ優勝は26回なので、優勝率は51%だ。26回のうち、景気の「山」と「谷」の日付「景気基準日付」に基づいて景気が良かった年を数えると19回で、73%の確率だ。

もし巨人の優勝と景気の間にも関係がないのであれば、これほど高い数字にはならないはず。そういう意味では、巨人が優勝する年に景気が良い傾向は存在するようにみえる。

こうした計算をしていて思い出したのは、長年一緒に働いたかつての上司だ。10年以上前だが、国内経済の情勢判断を担当し、日夜、景気の先行きについて議論していた。

休憩中に熱烈なヤクルトファンの彼の口から突然出てきたのが「ヤクルトが優勝する年は景気が悪い」というジンクスだ。「巨人が優勝する年は景気が良い」というのは正しくないと言うのだ。

そもそも景気の良しあしは、景気の拡大局面か、否かだけでなく、水準も重要になる。

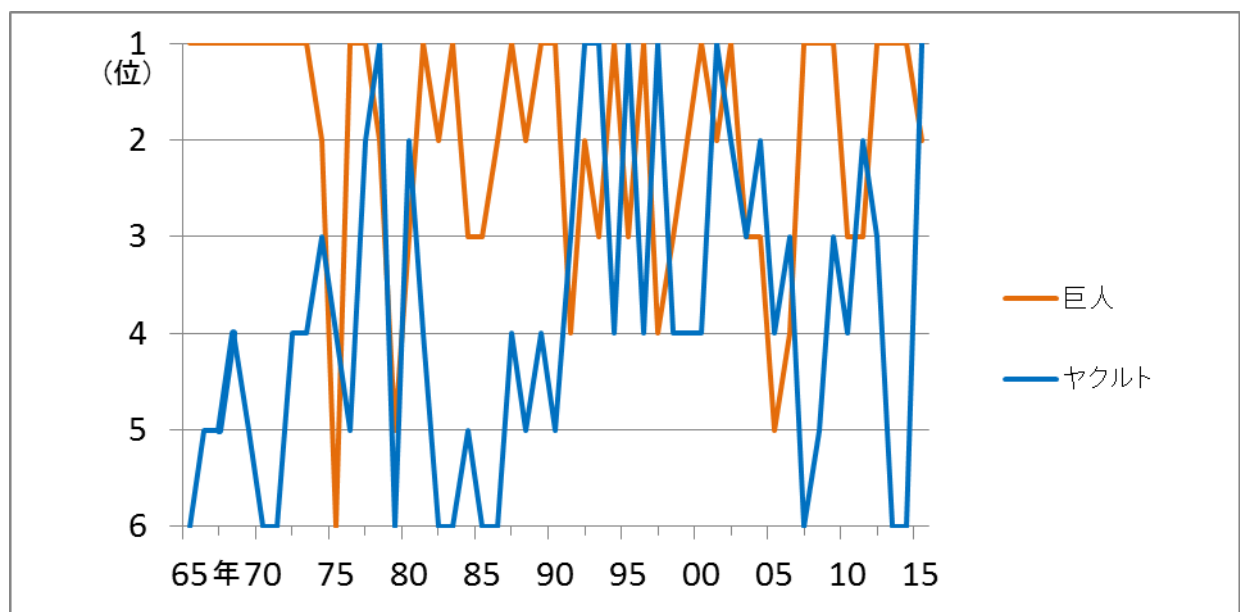
また、前出の優勝率の数え方を公式戦が終わる10月とするか、実際の優勝決定日など別のタイミングで数えるかでも、「景気の良かった年」の数は変わってくる。

これに対し、ヤクルトがリーグ優勝した年は1978年、92年、93年、95年、97年、01年の6回。1978年を除く最近の5回は全て景気が悪い年であり、傾向はより明確だという。

そして2015年、ヤクルトは14年ぶり7度目のリーグ優勝を遂げた一方、景気は新興国経済の減速から踊り場の状況に。かろうじて景気回復基調は持続したものの、投資家のリスク回避姿勢が一段と強まり、世界的に株価が下落する展開となった。

今年、日銀を離れるであろうかつての上司は、ヤクルト優勝と景気回復の動きが両立しないというジレンマが再び守られたことに満足しているだろうか。それとも景気の先行きを心配しているか。今度会って聞いてみることにしよう。

巨人とヤクルトの順位の変遷



日本銀行前橋支店長
神山 一成